



11月12日 福幸きらり商店街跡地利活用事業検討委員会開催

町では、福幸きらり商店街跡地の利活用方法を検討するため、「福幸きらり商店街跡地利活用事業検討委員会」を設置し、令和2年11月12日に第一回総会を開催しました。公募により採用した2名を含む12名の委員で構成される総会では、立地調査報告および活用方法について意見を交わしました。今後、町民からもアイデアを募り、令和4年2月を目途に町に委員会案を提出する予定です。



11月29日 富田林市・大槌町の連携協力に関する基本協定を締結しました

消防団同士の交流や、「奇跡の復興米」の栽培を通じた交流など、これまで紡いできた絆をより一層強固にすることを目的に、11月29日、大阪府富田林市との連携協力に関する基本協定を締結しました。

富田林市からは、震災直後より物資および給水支援、多くのご寄附、そして、平成23年から平成27年にかけては4名の職員を派遣していただくなど、これまで物心両面から多くのご支援をいただいております。

また、「奇跡の復興米」についても、毎年、当町の給食センターに新米を寄贈していただいております。今年も11月26日の給食において、大槌学園・吉里吉里学園の児童・生徒に「奇跡の復興米」が提供され、美味しくいただきました。

締結式は新型コロナウイルスの影響により、オンラインで行われました。今後は、両市町のPRと住民相互の交流、防災や産業振興などについて、具体的な取り組みに着手してまいります。



12月19日 長年のご支援に感謝 「静岡のみかんを届けよう」プロジェクト

12月19日、静岡県ボランティア協会による、みかんの配布が行われました。同協会は、東日本大震災直後から、被災地支援として「みんなの思いとともに、静岡のみかんを届けよう」プロジェクトにより毎年クリスマス前にみかんを当町に届けてくださいました。これまでは仮設住宅などへみかんを配布いただいておりますが、今年は保育園や福祉施設などへ配布。活動終了後、静岡県より来町された、ボランティアセンターの皆様へ、これまでのご支援に感謝と敬意を表し、平野町長から感謝状を贈呈しました。



年頭の辞

昨年を振り返れば、令和となり二年目を迎え、新たな時代への息吹に何かしらの期待を感じていたところでありました。しかしながら、いまだに全世界で猛威を振るう「新型コロナウイルス感染症」という未知のウイルスとの闘いの一年となつてしまいました。

町内においても、新型コロナウイルス感染症が暗い影を落とし、町内事業者はもとより、町の様々な事務事業に影響を及ぼしている現状にあります。皆様周知のとおり、公益財団法人「日本漢字能力検定協会」が主催する「今年の漢字」において「密」が選ばれています。「三密」という言葉に代表されるように、新型コロナウイルスによりもたらされた、まさに去年を象徴する言葉ではないでしょうか。

世の中では、ウィズコロナ、アフターコロナなどの言葉を耳にしますが、新型コロナウイルスの持つ特性等がある程度解明されればの話であって、今の段階では決して侮ってはならないと感じています。

町としましては、住民の皆様のお安全安心のために必要な措置を講じて参ります。また、今年には甚大な被害をもたらした東日本大

震災津波から三月十一日で十年を迎え、「大槌町東日本大震災津波復興計画」に基づいた事務事業のほとんどが事業完了を迎える状況にあり、さらには、復興計画の後継となる「第九次大槌町総合計画」は、三年目となる年度であります。

今後のまちづくりにおいて人口減少と少子高齢化の進行は喫緊の課題であります。この課題への取り組みには、現状をしっかりと捉え、適時・適切な取り組みを進めていかなければなりません。そのためにも、各分野の施策を有機的に連動・連結させ取り組むことが、地域経済や地域産業の活性化を図ることとなり、持続可能なまちづくりに繋がるものと考えております。町民と行政の協働のもと、各施策の取り組みを着実に進め、第九次総合計画の基本理念である「魅力ある人を育て、新しい価値を創造し続けるまち、大槌」の実現を目指してまいります。

令和三年一月五日

大槌町長 平野 公三